
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。無断引用や転載をお断りいたします。
Copyrighted materials of the authors. Works in progress: Please do not circulate
or cite without permission.

アジア太平洋地域における希望の人類学的研究：新たな身体実践が拓く未来

第1回研究会（2024年6月29日開催）報告

日時：2024年6月29日（土曜）13時～18時

場所：東京外国語大学 本郷サテライト 4F セミナールーム

内容：冒頭で代表者の深川が、研究会の主旨や研究会のメンバー構成、審査会においてよせられた審査員からの助言等を報告した。また本研究会と連動した科研費を獲得したため、それを活用した、成果論集出版等の活動を提案した。

その次に、深川が、希望の人類学的研究へのイントロダクションとなる研究発表を行った。深川は、宮崎広和が論じた希望の人類学の方法論や、人類学者による希望のロマン化を回避する研究方法、身体化された希望というコンセプト、そして希望の限界について論じる発表を行った。その後、参加者全員との質疑応答を行い、続いて全体討論を行った。次に、各メンバーたちが、自己紹介を含めた研究紹介と今後の展望について短い発表を行った。それらを通して、希望の人類学的研究を進めるにあたっては、各メンバーのフィールドの地域性や個別性を重視することの必要性が確認された。さらに個別の地域で対象となる人々に絶望を強いている、広い意味での近代的な社会システム・科学技術システム・経済システム等を深く認識して分析することが必要であることが明らかになった。深川による研究発表の概要は、下記の通りである。

（以上文責 深川宏樹）

報告1

「希望という方法、希望のロマン化、身体化された希望、そして希望の限界
—希望の人類学序説—」

深川宏樹（AA 研共同研究員、神戸大学）

本発表は、本研究会で希望の人類学的研究を行うにあたって、その大きな研究枠組みと方

法論と諸概念について論じる「希望の人類学序説」である。その背景には、希望の人類学的研究が、国際的にみても未開拓の新規の研究領域であるため、まずはその土台づくりを試論的に行う必要性があった。よって、本発表は、これから本研究会で独自に新しい希望の人類学を構築するにあたってのイントロダクションの役割を果たすものである。

本発表では、第一に、国際的に見ても類稀な人類学の希望論である、宮崎広和の『希望という方法』（英語版タイトル：The Method of Hope）について、深川による解釈を交えた解説を行った。この『希望という方法』をいかに乗り越えていくかは、本研究会の課題の一つである。第二に、希望の人類学を展開するにあたって、かつての人類学の「抵抗論」がフィールドに抵抗をトップダウン的に半ば恣意的に「発見」してしまったように、希望が研究者によるトップダウン的なカテゴリー設定になってはしまわないかという審査員による助言をうけて、従来の「抵抗論」批判を手がかりに、フィールドに強引に希望を「発見」したり、その希望を「ロマン化」したりすることを回避するための研究枠組みを批判的に検討した。第三に、審査員による助言から得られた「身体化された希望」というコンセプトの含意とその広がりについて論じ、本研究会の目指すべき方向の一つを提案した。第四に、これも審査員の助言をうけて、希望の可能性だけでなく、希望の限界に位置する事例（ガザやアウシュヴィッツ）から、希望の不可能性をも視野に入れて、各地域に固有な希望の可能性と不可能性（及び両者の関係やせめぎ合い）に関する考察を深めることの重要性を説いた。

質疑応答では、いかに研究者がトップダウン的に、半ば強引に、各自のフィールドで「希望探し」や「希望のロマン化」あるいはそれらと表裏一体の「絶望探し」を行うことを回避できるか、その方法論についての議論が深められた。次いでそれを踏まえたうえで、各自のフィールドでどのような現地調査が必要になるのかについて議論が交わされた。さらに、安易に希望を論じる前に、まずはフィールドの人々に絶望を強いている近代的な「システム」を明らかにすること、すなわち効率化と利便性を追求する一方で人間を「モノ化」する社会システムや科学技術システム、資本主義システム、それらと緊密に結びついた国家軍事システム等を明晰に認識することについて意見が交換された。加えて、そこにおいては「希望」が「システム」を維持する「イデオロギー」としても機能することが指摘された。そこまで含めた「絶望のシステム」を分析する「絶望の人類学」を経由することで、その「システム」には回収されない、別の生き方の余地と可能性を探る、真の「希望の人類学」が可能になることが明確になった。